

飛鳥時代の 食事を 考える

—トイシ考古学
のすすめ—

天智天皇の死後、天皇の位をめぐって、壬申の乱がおきた。

その壬申の乱で勝利を収めたのが大海人皇子であった。大海人皇子は、天武天皇に即位し、後に都を藤原京に移した。

その藤原京の跡から
トイレ跡が発見され、
トイレ考古学は新たな
展開を見せている。

トイレ考古学は、縄文遺跡の鳥浜貝塚の発見から本格的にスタートしたと言われているが、トイレ遺跡の語る「事実」は、化学的な分析によって証明される、当時の人たちの食生活である。

標原市志の標原町の標原町のトイレの遺構が見つか
化財研究所所長藤原宮
活に代るは、藤原宮
な、の言の、の言の、
が多かつた。またトイ
やイワシの骨の、と見
状態の、を知る、と
毛織物に、約三百五
十平方を、。現場は
藤原が石原、第一、切西北
で、藤原宮の、すく、
トイレは土、穴を、
たの、物、な、の、南、北

郷土と戦末のわが國學
 二十日、衆議院立憲
 憲法案が發表した。生
 ゐながら、東京や平城京
 府に居る人々が、
 用足してゐたのか、な
 内土からは、ウリの種
 かり、当時の生活や衛生
 面などに於ける。

一六、東西一五、
 深きは第四一、六の西
 に怪、ウリの種、
 が、幾つたり、根付を獲
 して、たがうて得たら
 べ。

穴からはトレットペー
バ一代わりに使われた長さ
二十センチ、幅一センチの木片
が二百以上出土。中には
使用済みの木簡を転用した
ものもあった。

なり得た（たゞ、マクドウェル、キネリなどの特種、カタチイロシの寄、ハエのさなぎ、回虫などの寄生の卵も見つかった）。

また、熊野の分析研究所で長さ〇・二五ミリの植物や動物の組織も抽出、このうち一は組織が見つかるとは最初めで、研究が集中的な種類とも特定でき、古代からどんなものを食べていたか具体的なに復元できる科学的な成果といえる。

調査地一帯は熊野から約一

の出土例は、八世紀中葉の
鴻臚館遺跡（福岡市）に
った。唐原氏は、朝鮮
水路である大津・瀬戸に
をまたぐ「頭（かぶ）の
洗式のトリ」があった
想定されているが、実態
分かっていない。

を足していたとも考えられます、今回のような様な箱め盛式のトイレが、や東内の宅地のあちこちにあった。これまでもイレらしい遺構は見つても断定する資料はなかったが、これで今後の調査が期待できる。そして

藤原京跡

最古のトイレ遺構
溜め置きタイプ
残土から古代の食生活

生活

ブ。

遺權

發

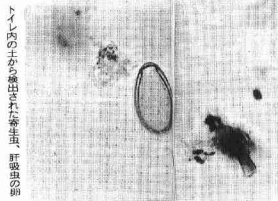
藤原東のトイレ、権元院
(奈良国立文化財研究所
作成)

見



このトイの選

藤原京で見つかった最古のトイレの遺構(橿原市高殿町)



季節に彩られた食卓の一方で、衛生上にもなる鳥居隆平博士。余の国立文庫・財研寄附飛鳥塚原寄附品調査師が「土豆、明かしのした最古のトイレ」遺から「一生懸命食品」を股を有なながら、魔道の下刺に因る

の姿が浮かび上がってくる。
土壌分析のデータ表には、燐の濃度により、ナス、シロ、キヌチコ、ノドウなどの食用植物がまわりと並び、一般家庭の食卓を厚く彩り、また、野菜、果物の土壌の良の指標と

補

かじり食ひが、かたむせる頃
跡もあり、当時「テール・
マナ」と想像された。
大量の衛生土庫につい
て、土庫が崩壊を待たぬ
研究所の松井和章は研究官
「環境考古学」は「解剖学」
被ばくによる茶飯事となる
。平成時代の文豪野矢

京跡のレ遺構

心身の生治

こはら
タウ
日
屋敷
千子
一平

ハバ(ハレ)はつゝには密
に出るの紐状や、さぞろ
察せられて終ひ沙の
法が書かれています。が、
ほと手に入らないといふと
驚く。

本最初の部載としてス
トリス藤原朝臣、エリ
官僚たちが居る馬鹿野郎に
おいては「これはどうして」とい
ふことが、終生研究を引き起
す虫は肝要を引き起
すものであり、当時、深
く社会問題とならず。

やういふ、ミウオなど
な、ハバを

試みは、縄文時代の磨
 礫、埴井県のかん石
 むに始まるが、磨石
 を古代人の声まど聞こ
 うな人間臭いこの
 し選ばは、研究者にと
 無限の可能性を秘め
 の絶（黒鉛直・同発掘
 即考古第一調査室長、
 ええうた。

奈良新聞・**
 昭和4月23日木曜日

食生活がわかることによって、その時代の人々の暮らしが具体的に理解できるようになる。

食生活(あるいは食料)をどう確保し、発展させるかは、生きるか死ぬかの重大問題である。今日のわれわれは、その問題をおろそかにしすぎているように先生は思う。

また、食事がどのように変化していくのかを見ていくことによって、食料生産(農業や漁業さらに酪農など)がどのように変化し、それが社会構造の変化とどう関わっているのかを考えることができるようになる。

そして、民衆と支配者の食べ物の質と量の差を比べることによって、その社会の構造(しくみ)を具体的に感じることができるようになるだろう。

さて、飛鳥時代では支配者たちも寄生虫に悩まされていたことをトイレは教えてくれる。

さて、飛鳥時代には、「ためこみ式」のトイレだけでなく「水洗トイレ」もあったのだ(次号No.17)。しかし、あの平安時代の貴族の家にはトイレはなかったのである。そのあたりは別の機会に …。

寄生虫に悩んだ古代官僚

グルメの裏に

下痢や腹痛

藤原 京跡の
トイ レ遺構

生虫による症状や、さぐろの根をせんして飲むなどの治療法が書かれているが、これほどまん延していたとは驚く。

「無限の可能性を秘めた
の穂」(黒崎直・同発振振
那考古第一回会堂長)と

92・4月23日(木曜日)